

—JNMS のページ—

Journal of Nippon Medical School

Vol. 73, No. 4 (2006年8月発行)

Summary

Journal of Nippon Medical Schoolに掲載しましたOriginal論文の英文「Abstract」を日本医科大学医学会雑誌に和文「Summary」として著者自身が簡潔にまとめたものです。

Endoscopic Video-Assisted Breast Surgery: Procedures and Short-Term Results

(J Nippon Med Sch 2006; 73: 193-202)

乳腺内視鏡手術：手術法と短期成績山下浩二¹ 清水一雄²¹日本医科大学武蔵小杉病院外科²日本医科大学外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器外科部門）

【背景】乳腺疾患に対する新しい内視鏡手術を考案した。手術法による整容性と治療成績を報告する。

【方法】腋窩創2.5 cmを唯一の操作孔とし、吊り上げ法により操作空間を確保した。ビデオ補助下に乳腺の部分または全体を切除した。悪性疾患の場合には、センチネルリンパ節生検と腋窩リンパ節郭清（level I+II）を施行した。

【結果】2001年12月から2005年4月に、乳腺疾患患者100名に乳腺内視鏡手術（VABS）を施行した。18名は良性、82名は悪性。悪性のうち、80名は乳房温存術、2名は皮下乳腺全摘術を施行した。手術時間、出血量、急性期関連の血液検査では、VABSと従来式温存術との間に有意差がなかった。切離断端は永久病理標本で全例陰性であった。傷は目立つ瘡痕を残さず、本来の乳房形状を温存でき、満足度が良好であった。

【結語】VABSは手術選択肢として考慮でき、乳腺疾患患者に美容上有利となる。

Critical Roles of Capillary Endothelial Cells for the Alveolar Remodeling in Nonspecific and Usual Interstitial Pneumonias

(J Nippon Med Sch 2006; 73: 203-213)

非特異的（NSIP）と通常型（UIP）間質性肺炎の肺胞改築における肺胞毛細血管内皮細胞の役割立原章年^{1,2} 金 恩京² 松岡利明²ガジザデ・モハマッド² 吉野横一¹ 武村民子³トラヴィス・ウィリアム D⁴ 川並汪一²¹日本医科大学内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ内科部門）²日本医科大学老人病研究所病理部門³日本赤十字医療センター中央病院病理部門⁴ニューヨーク・メモリアルスローンケタリング癌研究所病理部門

間質性肺炎の線維化に毛細血管内皮が関与する可能性を検討した。UIP（通常型間質性肺炎）6例、NSIP（非特異的間質性肺炎）4例と健常肺5例の生検組織に内皮マーカーであるThrombomodulin (TM), von Willebrand factor (vWF) 抗体を用いて蛍光抗体二重染色を施し、それらの分布パターンと血管の3次元構造を観察した。また、肺胞壁のVEGFとその受容体KDR, Flt-1 mRNA 発現をRT-PCR法により測定し、組織レベルでアポトーシスの出現を検索した。その結果、健常肺では肺胞毛細血管内皮は細胞膜にそってTMを発現し、細胞質はvWF陰性でVEGFとVEGFR mRNAは最も高度であった。UIPではTMが消失し細胞質にvWFを発現した。NSIP細胞浸潤型の血管内皮はTMとvWFを同時に発現し、ドーナツ状パターンを示した。単位長さの血管分枝数はNSIPが正常の45%にUIPが22%に減少し、TUNEL陽性細胞はNSIPで3.6倍UIPで4.3倍に増加した。VEGFとKDR mRNA 発現はNSIP, UIPとも有意に低下した。NSIPとUIPは血管内皮の細胞死が促進されて肺胞構造リモデリングがもたらされるとみなせる。